

令和6年度 第1回 高石市保健医療福祉審議会専門部会 議事録

【開催日時】 令和6年11月18日（月） 午後1時30分から開催

【開催場所】 高石市役所 本館3階 職員研修室

【出席委員】 委員14名中13名の委員が出席され開催いたしました。

金谷 志子	山崎 雅雄	小谷 哲夫
中谷 正彦	柴田 正明	若崎 孝子
中野 達郎	銭廣 幸壮	太田 政子
松若 貞二	土師 一仁	米谷 正次
村上 洋次		

（以上委員13名）

【欠席委員】 岩田 信生

【傍聴者】 なし

【日 程】 議題1 策定部会の副部会長の選任について
議題2 「第6次高石市地域福祉計画・第5次高石市地域福祉活動計画」策定について
議題3 その他

【確認事項】 ・高石市地域福祉計画・高石市地域福祉活動計画策定部会設置要綱第5条第1項に基づき、副部会長に村上委員が選出された。

【質疑応答】

・議題2、「第6次高石市地域福祉計画・第5次高石市地域福祉活動計画」策定について

（会 長）事務局から策定に向けての説明がありました。

市民アンケート、それから福祉関係者へのアンケート、地域懇談会でのご意見等を踏まえて、地域の課題を4つ挙げて、それらを中心とした計画を立案するという
ことで、今ご説明いただいた内容等について何かご意見やご質問等ありましたら、忌憚なくご発言いただきたい。

(委 員) 前計画の評価結果という報告が出ています。十分達成できた、一部達成できた、達成できなかったということでA、B、Cで分かれています。次の計画をつくるに当たっては、前計画の評価結果というのは非常に大事で、それを今回の計画に反映をしていかないといけないと考えています。どういうところが達成できたか、一部達成できたかは恐らく事務局では十分把握していると思いますが、こういうところはちょっとできなかったとか、こういうところは何とかできたとか、説明いただきたい。

(会 長) ありがとうございます。前計画の評価結果について、もう少し詳しくご説明をということで、特にB評価、一部達成できたとかというところを可能ならご説明をお願いします。

(事務局) 先日開催した保健医療福祉審議会において、もう少し細かな資料をお渡ししましたが、前回の計画では施策111項目を掲げていました。その中で事務局で精査し、骨子案24ページから主要なところを取り上げて掲載しています。ただ、先ほど委員が言われたように、十分達成できたところ、一部達成できたところが今の評価結果の表ではちょっと分かりにくいというところではあります。各種施策の見解については今後、第4章の中で現状と課題として、前計画のできていないところを踏まえ施策展開につなげていきたいと考えています。

24ページから掲載の前計画の施策の整理についてはもう少し分かりやすいように整理できないかを併せて検討させていただきます。

(会 長) 前計画の達成を踏まえ、計画第4章に現状と課題として記載されるということです。私からも一つ意見を。

今回2つ目の課題として、支援が必要な人だけではなく、支援する人にも情報が届く仕組みづくりということが挙げられています。元になっているアンケート調査の問11-1「地域で孤立している人や気がかりな人に対して何かしていますか」という問いに、気にかけて見守っている、相談に乗ったり手助けをしているということが挙げられていて、そうしたことをしてくださる人たちにも情報が届く仕組みをつくったらいいいのではという課題です。

言葉の用い方で少し意見があるのですが、「支援する人」と「支援される人」に分けられているということです。支援する人というのは、住民の方や隣近所の方になりますが、今の時代、誰でも孤立する可能性も、支援を受ける可能性もあるということ、地域全体に情報が行き届く仕組みをつくるという点から、分けられないような表現がいいのではないかと考えます。ご検討いただきたい。

(事務局) ご意見ありがとうございます。金谷部会長からご意見頂きましたとおり、我々の考えは、多くの方々に情報を届けたいということです。支援する人というところかなり絞られるのではないかとということで、表現を改めさせていただきたいと考えます。文言については、検討させていただいた上で、変更させていただきたいと思います。

(会 長) ご検討をお願いします。ほか、皆さん、何かご意見、ご質問等ございませんか。

(委 員) アンケートを見ますと、南海トラフと防災対策に重点的に取り組んでいただきたいと出ています。市民の間22-G「個別避難計画を知っていますか」という問いに、ほとんどの方が知らないということがあります。防災に関連して非常に大事なことだと思いますので、行政のほうから市民の方に対してPR活動、いろんな形でやっていただきたいというのが意見です。

それから、新たな担い手の確保がこれから非常に重要な課題になってくると思われます。活動の担い手として70歳代から80歳代の前半の方が活動しています。あと10年経つと、その方々も、亡くなるか高齢化になり、ボランティアで参加する担い手がぐっと減ってくると思われます。

孤独、孤立の死がどんどん増えていて、6月時点で今、2万人ぐらいというデータがあり、年間6万人ぐらい孤独になります。大変なことだと認識しています。いろいろ連携しながら、社協の方に連絡し、すぐ対応していただいたり、施設の方にも迅速に対応していただいて、ありがたいなと思っています。これから超高齢化になっていきますので、職員の手だけでは限界が出てくると思います。

そのため、東京都の港区とかほかの自治体でもこの課題に取り組んでいるところがあります。有償のふれあい相談員を、校区に1人か2人置いています。

月に1回ぐらいは専門の相談員が、1人で住んでいる高齢者の方へ有償で訪問するというようなことを考えていったほうがいいと思います。たくさんの方は要らないと思いますが、そういうことも考えていかなければいけない時代になったと感じています。

(会 長) 今いただいたご意見は、防災対策についてのアンケートの結果から個別避難計画の認知度が低いということ、その認知度を上げるような計画をとということが一つ。あと一つは、今の担い手が70代中心の活動であるということ、これから高齢化していくだろうということで、ほかの先進的な取組をしている自治体の取組などを参考に、高石市でも何か計画を立てればいいのかということです。その中の一つに有償ボランティアというのがあり、そういった取組なども参考にしてはどうかという意見かと思います。事務局から何かございますか。

(事務局) 個別避難計画については、令和3年の災害対策基本法の改正により、市町村の努力義務化となっています。本市では今年度から、一番海側に近いエリアから作成を進めることとしていますが、まだ住民への周知が十分でないということはアンケート結果からも重々承知しています。

支援していただくのは隣近所の方となります。コミュニティカフェ等、皆様が集まる場所で、防災関連というようなテーマで周知等を図ることができればと考えています。

もう一点、専門相談員訪問ということですが、孤独の方が非常に増えてきているということです。高齢者の見守りという点では、校区福祉委員、民生委員・児童委員の方が見回りをしています、その中で緊急の連絡先を書けないというような、身寄りのない方が非常に増えてきているという状況も、把握しています。そういったことに対しても、何かしら施策を講じていかないといけないということは承知していますが、内容については、先進事例、いろいろ参考にさせていただきながら今後検討していきたいと考えています。

(会 長) ほかにご意見ございますか。

(委 員) 課題4つ見させていただいた中で、もっとICTやAIとか、そういう最先端のものが活用されるべきではないのかなとは考えています。

骨子案の24ページにICTのことが書かれています。LINEとか、ICT、AIをもっともっと活用できるような計画も今後考えていかないといけないのではないかと考えています。費用もかかりますが、ロボット産業、その辺とも関係していないといけないのではないかなと思います。課題として5つあるのではないかと考えています。

(会 長) ありがとうございます。今、4つの課題が出されていましたが、5つ目の課題として、ICTやAIなどを導入したデジタル化を含めた活動を推進していくということによろしいですか。そういったものにも取り組んでいく必要があるということですね。ありがとうございます。

アンケート調査の中でICTやAIなどの利用について、調べた結果というのは何かありましたか。事務局の方、何かご説明ください。また、こういうデジタル化の計画については何か考えていること、ご説明お願いします。これについて設問があったように記憶しています。

(委 員) 市民のアンケート問19「地域の情報をどこから入手されていますか」です。

非常に多かったのが、LINEなどからというものです。

(事務局) ご提言いただきありがとうございます。我々行政のほうもどんどん人材が減ってきている、各社アンケートを見ても事業者様のほうも人材が減ってきているという中、皆さん寄っていただく機会がどんどん減ってきた、忙しいなどで、集まるのが大変難しくなっています。

また、先ほどと重複するのですが、ご高齢の方については自治会の回覧板、市の広報紙というものがかなり有効ですが、若い方に情報を伝達していくというところでは、LINEとかインスタグラム等のSNSというのが非常に有効かと思っておりますので、積極的に活用していくことが非常に重要だと考えています。

今ボランティアポイント事業を進めています、紙に押印でやっているところで、この事務量もかなり大変な状況になっています。ICT化して、携帯のアプリでできるようになればと考えていますし、また、利用される方もそういった技術を得て使えるような状況に持っていくことも一つの課題だと考えています。今いただいた意見を踏まえ、5つ目の課題として加えるかどうか、事務局のほうでも検討させていただきたいと思っております。

(会長) ほか、何かございますか。

(委員) 日頃、ボランティアをやりながら気づいたことを述べさせていただきます。

少子高齢化、高齢化がどんどん進んでいることは間違いないです。ボランティアをやっていて、いろいろ困り事を直接聞いていますが、この人とこの人、同じようなことでこんなことまで聞いているのだとか、聞いて困っているのだということが非常に多いです。お年寄りの方がどこに相談していいか分からないというのが連鎖しているような感じがします。

サポートする側も、全部を受け取るわけにはいかないのは分かりますが、困っている方の意見を聞いていると、ひょっとしたら回り回しになっているとか、何をどこに相談していいか分からないのではと思うことがあります。

ある程度何でも聞くという窓口のようなものが絶対必要かと思っております。AIじゃないですが、いろんな意味で全部受け止めて、自分らのほうで解決して答えを返してあげるといふふうにしないと、お年寄りの方はちょっとしんどいと思います。

受け手のほうは非常に忙しいし、担い手も非常に少なくなっているので大変だとは思いますが、お年寄りが安心して相談できるというか、ここに相談したらいいという相手、窓口があるというのは非常に心強いと思います。

(会 長) ありがとうございます。実際、今ボランティアをされていて、困り事を聞くことが多い中、共通している困り事が多くあるということ、そういった困り事を相談できる場、窓口があればいいというようなご意見でよろしいでしょうか。
事務局のほうから、このご意見に対して、計画の中に盛り込もうと考えているようなことございますか。

(事務局) 今、ボランティアを委員がやられている中で、お困り事を持っている方がどこに相談に行けばいいのか分からないというような状況、また相談に行っても、うちでは解決できないと、そこで止まってしまっている状況があるということです。現在、相談の総合窓口として、社会福祉協議会がどんな困り事でも受けて、つないでいくということはさせていただいていますが、そうすると、社会福祉協議会に行かないといけないじゃないかということになります。余り認知されていないかもしれませんが、今郵便局と協定を結ばせていただき、郵便局でも困り事の入り口として相談していただける体制を取っています。
今やっている相談受けのところをもっと詳しく、困っている方に情報を伝えていくということも必要ですし、総合相談窓口の数を増やしていくことができるのかということ、人数の面も併せて検討していかないといけないと考えています。

(委 員) 今の関連でちょっとよろしいですか。

(会 長) はい、どうぞ。

(委 員) 私たちも月2回ぐらいコミュニティカフェをやっていますが、たくさんの方の地域の人が集まってきます。コミュニティカフェでは、いろんな認知症予防とか、そういうことが主になっていますが、困り事にはこういう相談できる場所がありますという情報提供も大事だと考えています。地域の人に、こういう相談窓口がありますということをPRしていかなければいけないと感じました。
社協が時々、ポストへ案内・チラシを入れていただいています。人との関わりの中で話をするほうが伝わりやすいと感じました。
それから、シニアクラブも、コロナを契機に、2年間活動休止ということで、オンラインで会議をする必要に迫られ、デジタル化を今後どういう形で推進したらいいか、各専門の部会をつくって検討、答申を出しています。これに基づいて今、シニアクラブもデジタル化を進めています。
連絡も紙じゃなくてLINEでしています。高齢者も大体8割がもうスマホを持っていますので、年寄りだからということではなく、率先してこういうこともしていま

す。市民全体的にもこれから地域間の連絡体制とか、いろんな申請もオンラインとか、活用していかないといけないと感じています。

(会 長) ありがとうございます。日々の活動の中からの感じたことのご意見でした。コミュニティカフェを拠点として、情報発信していくとか、相談の場を広報していくことも必要ではないかということ、老人クラブでもいろんなデジタル化が進んでいますので、市民全体にもそういうものに取り組んでいったらいいのではないかとご意見です。

事務局のほう、何かございますか。

(事務局) ご意見ありがとうございます。コミュニティカフェにつきましては、生活支援コーディネーターが、コミュニティカフェでどういったことをすればいいのかということを検討しています。今後生活支援コーディネーターの中で有用な情報を提供できるような、またコミュニティカフェが一つの情報発信の元であるというような形となればいいかと思います。

また、デジタル化については、苦手な方もいらっしゃいますので、使い方等を教授できる場というのが、必要だと思います。また何かしらの形で、市や社会福祉協議会でできればと考えています。

(会 長) ほかにご質問やご意見ございませんか。

では、質問がないようですので、議案2につきましては以上です。

次回の策定部会では、本日報告のあったアンケートの結果、それから地域懇談会の結果、本日いただいたご意見を踏まえて、地域福祉施策を進めていくための方針、目標、計画等が提示されるということです。

各委員には引き続きまたご意見をいただき、計画策定につなげていきたいと思うしますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【質疑応答】

・議題3、その他

(会 長) 本日の案件は以上かと思いますが、その他として委員の皆さんから何かございますか。

事務局、何かございますか。

(事務局) 本日は貴重なご意見を賜りましてありがとうございます。

次回の当部会でございますけれども、先ほどスケジュールをお示しさせていただきましたとおり、1月の予定をしてございます。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、ご希望の日程に沿えない場合も多く、お手数をおかけいたしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(会 長) それでは、以上をもちまして、本日の部会をこれで閉会といたします。

本日はスムーズな議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。